

集中治療領域の症例から学ぶ

～そこに臨床工学技士がいたから助かった～

日時

2018年9月9日(日曜日)

場所

長崎ブリックホール 第6会場 / リハーサル室

趣旨

臨床工学技士が関わる集中治療領域の業務として、人工呼吸器管理、急性血液浄化、ECMO、低体温療法など多岐にわたる。臨床工学技士業務指針上では生命維持管理装置を医師の指示の下に操作・管理をしなければならないと定められているが専門知識を有する医療チーム内では医師とコメディカルの立場は対等であり指示を待つだけでは良い治療を行えない。医師に対し適格な治療戦略を提案し治療方針が変わり臨床工学技士のおかげで早期離床ができた、より良い治療が出来たと言われるとやりがいを感じる人は多いはず。そのような実体験に基づく症例を提示し臨床工学技士目線でプレゼンする。

座長

成田 安志 (佐賀県医療センター好生館)

上森 光洋 (天陽会中央病院)

演者

森 聡史 先生 (大分市医師会立アルメイダ病院)

集中治療室における臨床工学技士による呼吸管理

演者

平山 千佳 先生 (琉球大学医学部附属病院)

急性肝不全との戦い

演者

山崎 慎太郎 先生 (福岡大学病院)

Harlequin syndromeに対するV-VA ECMO

演者

荒木 康幸 先生 (済生会熊本病院)

集中治療室におけるCEの役割の変化